

福原水防センター 平常時の活用は

原 裕司議員

地域の防災訓練など防災教育に活用
企画政策部長



問 市民の命・財産を守る福原水防センターの整備計画は。

答 木曽川福原地区河川防災ステーション内の北側に建設を予定している。

現在、令和10年4月供用開始に向け、ステーションは、敷地面積約1万9600㎡を造成する。水防センターは、約2・9mの盛土を行い、鉄骨造の2階建てで、延べ床面積は約410㎡を予定している。



▲造成が進む河川防災ステーション（福原水防センター含む）予定地

1階には、水害に対応するための器具類を保管する水防倉庫、立田

第3分団福原・福原新田地区の積載車の格納場所、水防活動を行う水防活動室のほか、多目的トイレを整備する。2階は、市の備蓄倉庫、福原・福原新田地区を始めとする避難場所と防災活動の会議等を行う避難場所兼会議室、その他、多目的トイレを整備する予定だ。

問 国へ旧農村環境改善センターの跡地を売却し、その収益を福原水防センターの建設費に充てると聞いている。土地の平米単価と売却金額は。

答 宅地の1平方メートル当たりの単価は1万8200円。不動産売却収入は、8237万1731円だ。

問 計画では、ヘリポート整備が含まれているが、市内で防災ヘリが発着できる場所は。

答 佐屋総合運動場、佐織総合運動場、貝沼建設花はすフィールドあいさいがある。

問 建設予定の水防センターの設置においては、防災拠点の防災備蓄・避難場所ばかりではなく、平常時の憩いの場、交流の拠点として活用してほしい。施設管理等、今後の進め方は。

答 建設予定の水防センターの設置においては、防災拠点の防災備蓄・避難場所ばかりではなく、平常時の憩いの場、交流の拠点として活用してほしい。施設管理等、今後の進め方は。

答 福原・福原新田地区での防災訓練や出前講座などの防災教育に活用するほか、会議室として地域の方の利用を考えている。

問 木曽川福原地区河川防災ステーションの活用方法は多種多様だ。福原地区には歴史的建造物などがある。観光促進として、地域の魅力のアピールは。

答 愛西市観光協会が観光船を運航し、国指定重要文化財の船頭平間門や土木学会選奨土木遺産のケレップ水制などの案内をしている。下船後は、木曽川文庫にて輪中、宝暦治水、明治改修などの木曽三川の歴史の文獻などを閲覧でき、ガイド案内もしている。